

## 「ぶどう膜炎続発緑内障の原因疾患および緑内障病型の検討」のお知らせとお願い

眼の中に炎症を生じる病気であるぶどう膜炎はさまざまな合併症をきたしますが、ぶどう膜炎に伴って眼圧が上昇する、ぶどう膜炎続発緑内障はその中でも比較的高頻度にみられます。ぶどう膜炎続発緑内障においては眼圧が上昇するメカニズムは多岐にわたり、さらに、ぶどう膜炎治療の主体をなす副腎皮質ステロイド薬にも眼圧上昇の副作用（ステロイド緑内障）があるため、ステロイドの投与によって眼圧が上昇するメカニズムはより複雑となり、その結果、診断や治療に苦慮する例が多くみられます。他方、ヘルペスウイルスが原因となって生じるヘルペス虹彩毛様体炎や、発作的に片眼の炎症と眼圧上昇をきたすポスナー・シュロツスマン症候群に代表されるように、原因疾患によってはぶどう膜炎やそれに合併する緑内障の病型に一定の傾向がみられます。従って、ぶどう膜炎続発緑内障の原因疾患や緑内障病型、および発症危険因子を同定することによって有益な治療および管理に資すると考えられます。そこで、ぶどう膜炎続発緑内障と診断された患者さんについて、臨床所見および検査所見について診療録をもとに調査を行い、それらの結果を検討する事でぶどう膜炎続発緑内障その原因疾患および緑内障病型、ぶどう膜炎続発緑内障発症の危険因子を検討する事を目的とする、後ろ向き観察研究を計画しております。具体的には、平成22年4月1日から26年3月31日の間に、当院眼科を受診したぶどう膜炎続発緑内障患者の診療録を対象として、患者背景（年齢、性別、発症から受診までの期間など）、ぶどう膜炎の発症部位（前部、後部、もしくは汎ぶどう膜炎）、ぶどう膜炎の病型（肉芽腫性もしくは非肉芽種性ぶどう膜炎）、ぶどう膜炎の原因疾患、日本緑内障学会の作成した「緑内障診療ガイドライン（第3版）」に基づいた続発緑内障病型（続発開放隅角もしくは続発閉塞隅角緑内障）、副腎皮質ステロイド薬の投与期間、およびステロイド緑内障合併の有無などを収集、解析するものです。

本研究は、今後、研究のために患者様から検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの外来治療での診療録のみを用いる後ろ向き観察研究です。患者様の臨床データはID等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。また、平成22年4月1日から26年3月31日の間に、防衛医科大学校病院でぶどう膜炎続発緑内障と診断された方で、ご自分の臨床データを研究に使わないで欲しい、というご希望が有れば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院眼科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

防衛医科大学校病院眼科

連絡先：埼玉県所沢市並木3-2  
防衛医科大学校 眼科学  
電話：04-2995-1211（内線：2333）  
研究担当医師：眼科学 神田貴之